

※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。

自由討議

木村：そうしたら、前回と同じく、講義を聞いて気づいたこと、発見したこと、感じたことを書いてみましょう。手元の附箋に、ペンを使って少し大きめに、今日の感想を書いてみてください。2分程度時間を取りたいと思います。いくつでも書いてみてください。1つの附箋には1つの意見でお願いします。皆に共有しやすいように大きな字でお願いします。

(各自附箋に記入)

藤井：先ほどの国家備蓄の放出の話ですけれども、決めるのは内閣総理大臣や経産大臣なので、ある意味政治判断です。お役所で「あ、この部分にこう書いてありますね。はい」ってやるのではなくて、政治的に判断して放出することになります。だから不測の事態です。想定できないということです。

(各自附箋に記入)

木村：そろそろいいでしょうか。では、共有していきましょう。

予想はしていると思うけど、逆周りで行きます。まだ書いている人は、書きながらも、耳はこっちに傾けて聞いてくださいね。はい、ではどうぞ。

G：まず、やっぱり原産国に強い発言権が出てくるのだなと思いました。天然ガスの輸入国は使おうが使うまいがずっとお金を払わないといけないとか、石油原産国の独占の影響で値段が政治的に釣り上げられてしまうとか。なんだろう、地球という決められた資源の中で、それを多く持っているところはどうしても強い発言権を政治的に持つてしまうのだなとすごく感じました。

木村：ちょっといいですか。言い忘れていたのですけれども、藤井先生は、今は生暖かい目で見てもらって、その後、コメントがあれば言っていただく時間を設けますので、ぜひ聞いてみてください。

藤井：あ、そうですか。

木村：はい。どうぞ、続けてください。

G：これは新しく知ったことですがけれども、石油備蓄の存在。今まで、石油は使う分だけその都度輸入するものなのかなと思っていたのですけれども、それが国とか、出光とかの民間企業によって蓄えられているということを今回新しく知って、なるほどと思いました。

それに付随して、これは私の中ではまだ解決していないというか、先生は、輸入がストップしても思ったほど影響が出ないのではないかとおっしゃったのですけれども、確かに、石油備蓄が存在することですぐには影響が出ないということは分かったのですけれども、実際にストップしてみたら、思わぬところから影響出るのではないかなと。まだ未知数だと思うのですけれども、でも、先生が影響ないと言ったのは意外だなと思いました。

藤井：あまり言わないほうが良かったかな（笑）。安心されても困るので。騒がれるほどは影響がないのではないかと、ということです。まあ、今は言わないほうがいいかな。

木村：後でまとめて言っていただこうと思います。

そうしたら、Fさん、どうぞ。

F：石油枯渇まであと何年というのは、確認していないだけということが分かったので、今まで、枯渇したらどうしようと思っていたのですけれども、意外と大丈夫そうなのだなというのが感想です。

あとは、天然ガスを日本はだいたい液化して輸送しているところを、大陸ではパイプラインでつないでいるということで、地域性が結構あるということも初めて知りました。

石油がどうしてそんなに使いやすいのかというのが、流体であるというのが結構な発見でした。

最後に、バイオマスが思っていたほど早急に大きな影響を与えられないのだなというのが発見でした。以上です。

木村：じゃあ、Eさん。

E：最初に、言葉をあまりよく知らなかったのですけれども、安全保障というのが安定供給のことなんだと。安全とついているから、なんか意外だなと思いました。

あと、最初のほうに見たグラフで、ウランは増殖させることで石炭を超える資源になりえるということ、超えるっていても60倍とかになって、すごいのだと。利用できればいい資源なのだろうなと思いました。

あと、LNGの長期契約というのを初めて知りました。結構不平等な感じが。そんなのがまだあるんだと思いました。

あと、石油の価格変動のところで、開発に乗り出せば自国が安定したエネルギーを得ることができるとは限らないという話が、意外だなと思いました。以上です。

木村：じゃあ、Dさん。

D：石油備蓄があるというのは知らなかったです。

最初のほうの化石燃料の資源量とか埋蔵量という区分、私たちの時代も、ずっと何年でなくなるって言われていて、まあ、毎回年数が減らないんですけど、そういう区分があるのだなと思いました。

あとは、日本の近海からはエネルギーをあまり調達できそうにないと知って、がっかりしました。

あとは、マラッカ海峡を仮に通れなかったとしても、何とかなりそうだとということが分かって、よかったです。

最後は、ちょっとずれているのですけれども、価格リスクを考慮するときに、ファイナンス理論を使っていたのが結構驚きで、理想的な状態を想定した上で、どういうふうポートフォリオを組んでいくのか、現実に対応していくのか、という理論的な視点があるのは有益なことじゃないかなと思いました。以上です。

木村：じゃあ、Cさん。

C：私は、聞いていて最初に思ったのが、エネルギーが物量的に枯れる心配はあまりないのだなと。

安定供給においては、物量的に枯れる心配よりも、政治的な要因のほうが大事だとすごく思いました。思ったというより、まあ、結構驚いたという感じです。

それから、思っていた以上に、ウランの埋蔵量がエネルギー換算で多いことが分かりました。これだけ圧倒的に多ければ、確かにこれだけリスクがあっても、皆が原子力をどうこうしたくなるのが少し分かった気がしました。

そして、その辺を全部踏まえて、技術開発が進んでいけば進んでいくほど、エネルギー問題は、多少は解決していくのかなと個人的に思いました。以上です。

木村：じゃあ、Bさん。

B：まず、国産資源による代替がすぐには厳しいという話で、メタンハイドレードの話題が出たときにすごく胸が高鳴ったのですけれども、あと半世紀くらいはかかると知って、がっかりしてしまったところがありました。

Fさんのパイプラインの地域性のところとも関連すると思うのですが、意外と日本が、ま

あ島国であることもあるのですけれども、孤立しているのだなと改めて思いました。

それから、南シナ海の話は、あまり影響がないのかな？ ってちょっと思いました。すみません（笑）。

あとは、石油備蓄で民間の備蓄が結構使われていたというのが驚きで、そこに可能性があるのではないかなと思いました。以上です。

木村：1つ残っていますけど、それはいいのですか？

B：あ、じゃあ。ええと、LNG の長期契約プロジェクトがあるという話で、一緒なのであれだったのですけれども。あまり長期のことを想像していなくて、短期だから結構不安定なのかなと思っていた部分があったので、現実にはちょっと難しい面があっても、そういう契約の方法があるのだなと思いました。以上です。

木村：じゃあ、Aさん。

A：私も結構出ている意見が多いのですけれども、まず、緊急時のために備蓄しているという事は発見でした。

あと、石油資源の回収率というのがあって、あと何十年でなくなるというのはあまりあてにならないのだなということが分かりました。

もう1つは、この辺とは反対の意見になるのですけれども、いろいろ対策をしているとはいっても、メタンハイドレードとかもまだ開発が進んでいないですし、自分の国だけでエネルギーを供給していくのは難しいので、諸外国とうまくやってくちやいけないのだなと改めて感じました。以上です。

木村：ありがとうございます。

今回は、この後、じゃあ気に入った意見を選んでください、というのをやったのですが、今日はもう時間がないので、最後に、これらの講義の感想を見て、藤井先生に総括をしていただいて、終わりにしたいと思います。

藤井：備蓄をご存知なかったというのが、私には驚きでした。それなりにお金をかけて備蓄をしています。

あと、言い忘れていたのは、天然ガスの長期契約と、価格が石油に連動するというのはいかにも不利だということで、天然ガスの取引のマーケットを日本で作ろうと、お役所が一生懸命旗を振っているのですけれども、参加者がなかなか出てこなくてうまくいきません。ただ、アメリカからのシェールガスの輸入が始まってくると、今、長期契約で縛られている部分がだんだん自由になってくる可能性が出てきます。東南アジアからしたら、

アメリカというライバルが出てくると、アメリカとの競争になって、いい条件を出さなければいけなくなって、安くなる可能性があるということです。

あと、これも言っていなかったのですが、オイルショック直後にだんだん石油価格が下がっていったのですけれども、そのときに、産油国からしたら、原子力発電所はすごく脅威だったわけです。自分たちが値段を上げると、先進国は原子力発電所で皆逃げたしまう。そうしたら自分たちの売り上げがなくなってしまうと。それで値段が下がったということがあります。「あなたたちがそう来るのだったら、我々はこういう手で返しますよ、それでもいいのですね?」「じゃあちょっと値段を安くしましょう」というような交渉のカードにもなっているということです。原子力発電所だけでなく、天然ガスとか、石油だけではなくて他のものに替えていくということが、交渉力を高めることにつながるので、安全保障上、そういう面での役目もあるということです。

あと、南シナ海について、本当に影響がないかどうかは分かりませんが、ただ、すごく影響があるのだとあおってくるような情報が中心になってくるかもしれないので、ちょっと待てよと。冷静に考えると、輸送距離が2割くらい伸びるだけじゃないかと。皆さんにはそうやって落ち着いて考えてもらいたいということでお話ししました。ちょっと逆に振り過ぎたかもしれないですけど(笑)。まあ影響がないことはないですけれども、あおられないようにしてくださいということです。

それくらいにしておきます。いろいろご意見ありがとうございました。

木村：はい。ということで、今日は藤井先生に、〈エネルギー安全保障〉に関してご講義をいただきました。拍手で終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。(拍手)